

ベビーゲートの事故情報、事故防止に係る安全基準等について

(一財) 自治体国際化協会シドニー事務所
所長補佐 菊田 大介

1 ベビーゲートに起因する子供の事故情報（死亡事故、重傷事故事例、医療機関受診件数）

ベビーゲートだけを対象とする事故情報については確認できなかったため、参考までに、オーストラリア連邦政府保健福祉研究所¹ (Australian Institute of Health and Welfare) のけがによる死亡 (injury deaths) についての報告書 (Trends in injury deaths, Australia 1999-00 to 2014-15²) 及び入院を要したけが (Hospitalised injuries) についての報告書 (Trends in hospitalised injury, Australia 1999-00 to 2014-15³) より、落下による死亡事故人数及び落下によるけがにより医療機関を受診した件数について、2014年7月1日から2015年6月30日までの1年間のデータを抜粋して報告する。

(1) 死亡事故人数

- ・2014年7月1日から2015年6月30日の1年間で、4,718人（男性2,039人、女性2,679人）が意図しない落下 (Unintentional falls) を原因として亡くなった。そのうち9割以上に当たる4,465人（男性1,858人、女性2,607人）が65歳以上の高齢者で、0歳以上4歳以下の人は女性2人であった。

(2) 医療機関受診件数

- ・2014年7月1日から2015年6月30日の1年間で、落下によるけがにより医療機関を受診した件数は198,576件（男性86,500件、女性112,075件）であり、そのうち半分以上に当たる111,222件（男性37,036件、女性74,186件）が65歳以上の高齢者によるもので、0歳以上4歳以下は10,499件（男性5,953件、女性4,546件）と全体の5%程度であった。
- ・落下の原因別に見てみると、同じ階層でのつまずき等による落下事故 (Fall on same level from slipping, tripping and stumbling) が最多で55,737件と落下事故全体の28%程度となっており、階段等からの落下事故 (Fall on and from stairs and steps) は、13,837件と落下事故全体の7%程度となっている。

2 ベビーゲートの安全基準・規格やガイドライン等

オーストラリアの商品安全システムは、消費者、供給者、政府機関等の協力により成り立っており、そのうち政府機関は様々な製品のモニタリングと規制等を担う。連邦レベルの管理者にあたるオーストラリア公正取引・消費者委員会 (Australian Competition and Consumer Commission、以下、ACCC) は、特に安全に留意すべき製品に対し、法的拘束力を持つ強制規格 (Mandatory standard) を設定しているが、ベビーゲートに関しては強制規格を設定していない。

3 ベビーゲートに起因する子供の事故防止のための、各国の取組、啓発活動等

上記2のとおり、ACCCはベビーゲートに関しては強制規格を設定していないものの、使用によるリスク及び製品を選ぶ際の注意について示している⁴。具体的には以下のとおり。

リスクと負傷

子供たちの腕、脚や頭が、バーの間にひっかかる可能性があります。

購入のコツ

- ・片手でゲートを開けることができる利便性と安全性の必要性を考慮してください。
- ・階段など危険度の高い領域を遮断する必要がある場合は、壁面に取り付けるタイプのゲートを選択してください。危険度の高い領域では、壁面に取り付けるタイプでないゲートは安全性が十分ではありません。
- ・子供の頭がひっかからないように、バーの間のスペースが 50mm から 95mm の間にあることを確認してください。
- ・旧式の crisscross diamond-shaped accordion gates⁵は購入しないでください。これらは、子供の頭や衣服をひっかける可能性があります。
- ・底部にフレームのあるゲートの購入は避けてください。これらはゲートを開いたときにつまづく原因になります。
- ・ペット用のゲートは、安全性が十分でない、または乳幼児用に設計されていないため、子供用の安全ゲートの代替品として適していません。

4 ベビーゲートの設置義務の有無

上記2のとおり、強制規格を設定しておらず、設置義務についても確認できなかった。

5 行政機関等によるベビーゲートの使用の推奨の有無

子育てネットワーク（Raising Children Network⁶）のHPにて、階段やバルコニーへの侵入（落下）を防ぐために使用することが推奨⁷されているが、上記2のとおり安全基準が設定されていないので、製品を選ぶ際に参考となるチェックリスト⁸を公開している。

¹ オーストラリア健康福祉研究所は、オーストラリアの健康及び福祉に関する情報提供や統計を行う政府機関。The Australian Institute of Health and Welfare Act に基づき、1987年に設立。

² 詳細は、

<https://www.aihw.gov.au/reports/injury/trends-injury-deaths-1999-00-to-2014-15/contents/table-of-contents>（報告書 P59 参照）

³ 詳細は、

<https://www.aihw.gov.au/reports/injury/trends-in-hospitalised-injury-1999-00-to-2014-15/contents/table-of-contents>（性別・年齢別医療機関受診件数は報告書 P55 及び Data table: Chapter 7 Falls 参照、落下原因別内訳については報告書 P59 参照）

⁴ 詳細は、<https://www.productsafety.gov.au/products/babies-kids/kids-equipment/safety-gates> 及び https://www.productsafety.gov.au/system/files/Keeping%20baby%20Safe_0.pdf（P48 参照）

⁵ イメージは別紙 1

⁶ オーストラリア連邦政府により 2006年に設立された非営利組織で、オーストラリアでの子育てに関して様々な情報を公開している。

⁷ 詳細は、<https://raisingchildren.net.au/babies/safety/home-pets/home-safety>

⁸ 詳細は、<https://raisingchildren.net.au/babies/safety/equipment-furniture/safe-baby-furniture>